

## 2021年度ものの見方を写真で鍛える～不確実な社会を生き抜くために～

これまで、そしてこれからも他と違う個性が求められる時代です。自分らしいものの見方、思考方法を鍛える方法があまり知られていないため、今回は写真を使ってトレーニングをするセミナーを企画しました。

### ■ 日 時

2021年10月21日（木） 13:00～17:00

### ■ 場 所

北海道大学人材育成本部会議室

※新型コロナウイルス感染状況により、会場や定員の変更、セミナー自体が中止になる場合があります。

### ■ 対象者

北海道大学大学院博士後期課程学生（DC）、博士研究員（PD）、博士前期課程学生（MC）

※定員を超えた場合は、DC・PD優先（但し、先着順）

### ■ 定 員

20名

※新型コロナウイルス感染状況により、定員が変更になった場合は、応募状況により抽選する場合があります。

※函館キャンパスの方は旅費の支給があります。

### ■ 講 師

遠山勉 氏（写真活動家）

Photo Shooter, Tom Farmount として写真活動を実践。弁理士でもある。株式会社知財ソリューション代表。知財創造の視点から写真のあり方を研究中。「写真で元気プロジェクト」を主催し、不登校支援学校での写真講座、地域振興などへの写真の活用を試みている。軽井沢観光協会・軽井沢写真部運営。また、Facebookで「ぶらカメラ・フォト・ウォーキング」「Old Lens Photo Club」「ミッションフォトウォーキング」「Bokeh Art Modified Lens Club（レンズ改造・工作クラブ）」を主催。

### ■ プログラム

13:00～13:10 趣旨説明

13:10～13:25 写真の撮影方法の講義

13:25～13:30 フィールドワークの説明

13:30～15:30 フィールドワーク※天候により博物館

15:30～16:30 作品（考え）発表

16:30～17:00 総括・写真撮影から学ぶものの見方・不確実な社会を生き抜くために

### ■ 準備するもの

デジタル写真の撮影が可能なカメラ

（スマートフォン、コンパクトデジタルカメラ、一眼レフカメラ等）



## ■ 申込方法

人材育成本部「Hi-System」にログインのうえ、「イベント情報」よりお申込みください。

(Hi-System へのご登録が必要です。)

お申込みはこちらから→



Hi-Systemへのご登録はこちらから→



(ご登録の前に、[人材育成本部「Hi-Systemの概要」](#)をご覧ください。)

※Hi-Systemの登録に2、3日がかかる場合がありますので、登録がお済みでない方は、時間に余裕を持って登録とセミナーの申込の操作を行ってください。

※お申込み後、3日(土日祝日を除く)以上経過しても申込受付完了のお知らせメールが届かない場合は、下記問合せ先迄ご連絡ください。

## ■ 申込締切

2021年10月14日(木) 16:00まで

## ■ 主催・お問合せ

北海道大学 人材育成本部 上級人材育成ステーション S-cubic

TEL : 011-706-3275

E-mail : s-cubic@synfoster.hokudai.ac.jp

## ■ 共催

北海道大学 人材育成本部 国際人材育成プログラム I-HoP

北海道大学 人材育成本部 連携型博士研究人材育成推進室 COFRe

連携型博士研究人材総合育成システム

## ■ 協力

北海道大学キャリアセンター

## ■ 講師からのメッセージ

「イノベーション」という言葉ほど多くの企業が好む言葉はないように思える。これは、他を凌ぐ優れた商品やサービスが生まれていないことの証左であろう。どの企業も同じような商品・サービスを提供するのみで、他との差別化が図れない。

その背景には、正解を他に求める正解主義、出る釘は打つという日本社会が持つ同調圧力があるのだろうか。自然科学の世界では、自ずと一つの解を求めることができようが、自然科学の成果を利用した製品・サービスは、複雑で不確実な人間社会の中で評価され、良い技術であったとしても評価されるとは限らず、そこには「絶対的正解」は無い。これまでも、そして、これからも続く不確実な社会を生き抜くためには、解は他に求めるのではなく、自ら作り出さなければならない。そして、作り出した解が、正解するかは、その時の社会状況による相対的なものである。我々は社会を観察し、社会を科学して自ら解を作り出さなければならない。もの見方を変えれば、生き抜くための新しい道筋が見えるかもしれない。

なぜ、写真か?・・・写真は誰でも写すことができます。どういった視点で、何をどのように撮影するか、写す人の個性・もの見方を反映します。何の変哲もない被写体も、視点を変えて撮ると、ともも魅力的になります。もの見方や思考方法を訓練するにはとても良いツールと言えるでしょう。